

令和2年度第1回村上市地域包括支援センター運営協議会 会議録

1. 開催日時：令和2年10月30日（金）午後2時45分～午後3時

2. 開催場所：村上市生涯学習センター 2階 大・中会議室

3. 出席者：（敬称略）

【出席委員】西村 治、阿部正一、土岐裕也、山下ゆかり、伊與部純夫、佐藤美和、露崎かおり
川内信一

【事務局】介護高齢課 小田課長、高橋課長補佐、山田課長補佐、田中センター長、五十嵐係長、
志田主査、遠山主査、荒川支所高橋係長、朝日支所八幡主査、山北支所谷井副参事

4. 会議次第

1. 開 会 午後2時45分 あいさつ 西村会長

2. 議 題

(1) 令和2年度事業経過報告について・・・資料1

（事務局説明）新型コロナウイルスの影響で今年度前半は事業が実施出来なかった。後半から形を変えて事業を実施している。各地区の実施状況についてもこの後担当から説明を予定。

【質問・意見】

○委 員：質問というよりは要望。一般介護予防事業の実態把握訪問について、全戸訪問はなかなか難しいし大変なことも理解している。出向いてニーズを把握してこころは大事なこと。ニーズ把握とニーズ評を掘り進めていくことで、元気応援など事業にもつながりやすいと思う。なかには手をあげづらい人や手のあげ方がわからない人もすごく多いと思う。

また、専門学校の看護学生実習の受け入れについても伺いたい。

事務局：訪問対象者全員は回りきれていないが、各支所からリストアップした方を訪問し、事業の案内や、どんなことで困っているか、緊急連絡先などを聞ける人には確認している。年間300件くらいは訪問している。結果は支所にフィードバックしている。看護学生実習の受け入れについては、地域看護学の実習で包括支援センターの実習が1日あり本庁で受け入れている。介護予防事業の見学や、民生委員と一緒に訪問、会議へ参加などを行っている。

委 員：一つのアイデアとして聞いてもらいたい。看護職員・介護職員・療法士不足である今、若者は皆、買い手市場でどこも欲しい状況である。医療、介護、福祉に携わろうとしている若者を捕まえられる施策があれば人材不足の厳しい数値も改善されるので検討していただければと思う。

事務局：参考にさせてもらおう。

○委 員：多くのメニューを消化しており大変ご苦労様です。元気応援通所サービスや一般

介護予防事業の中で、各地区で委託している事業もあると思うが、委託先と支所や課との関わり、連絡・報告・会議はどのように実施しているのか。

事務局：委託先と担当・支所はそれぞれで連絡等行っている。今は新年度予算の時期であり、委託先と来年度の打ち合わせをしている。事業開始の際は、打ち合わせをしたり事業ごとに報告をもらっている。また随時連絡相談もおこなっている。

委員：報告に対する指導については市の考えが十分に伝わるよう指導してもらいたい。

○委員：退院支援マニュアルについて、入院から退院までどういった内容を想定して検討しているか。

事務局：スムーズ在宅生活が送れるように、退院に向けてケアマネジャーの欲しい情報と入院中に医療機関が欲しい情報などを出し合っただけでルール作りをしていきたいと思いい検討している。今は村上総合病院とやりとりしているが、案が出来たらそれをベースに他の医療機関もあわせて、地域で共通のルールができると良いと考えている。

委員：医療機関が提供する情報とケアマネジャーが欲しい情報についてはフェイスシート化される予定か。

事務局：書式があった方が良いということか。の有無についても、今後の参考としていく。

委員：書式があった方が良いと思う。

事務局：書式の有無についても今後検討していく。

委員：今の退院支援マニュアルの話だが、現在、自分たちはシートを活用したカンファレンスに力を入れている。病院とケアマネジャーの欲しい情報が合致しないことが多いと思うのでシートがあればよいと思う。相談員が療養型病院と転院の際、活用しているシートがあるので活用していただきたい。

また、前回の会議の際、低栄養のリスクの高齢者が多いというデータあった。荒川地区は低栄養のリスクが特に高かったが何か理由があるのか。

事務局：これから分析していく。今年度から介護予防と保健事業の一体化が始まり、保健サイドで地区に出向いてフレイルの健康教育を行っている。そのなかで質問票を記入してもらうので、そのデータが蓄積することにより、原因が地区別でわかると思う。

委員：今まで自立して生活していた方が、病気で家で動けなくなり入院するのだが、褥瘡ができていて多いので、そういったことも背景にあるのではと思う。

(2) 各支所活動状況報告について・・・資料2

(事務局説明)

【質問・意見】

○委員：ケアマネジャーの会議について、月1回会議を行っているか。

事務局：各地区の連絡会は資料に記載してある通りで、村上地区は隔月実施している。数か月に1回事例検討会も行っている。

委員：ケアマネジャーが計画を作成し自宅を訪問するが、コロナ禍で玄関先での対応で顔も見ずに帰ってしまうという話が聞こえてくる。その状態で計画を組めるのか？施設は2週間ルールがあるし、盆や正月も帰省をできない状況である。コロナ

禍だからこそ、ケアマネが工夫してやっていく必要がある。今、介護者は何を望んで何がしたいのか。コロナ禍で、何もできずにストレスが溜まり介護人数が増えていくと思う。ケアマネが寄り添って考えていけるような体制を作っていく必要があると思う。

事務局：ケアマネジャーの話だが、こちらが知る限りではケアマネジャー自身も感染症対策に十分気を付けながら、毎月訪問したり計画をやりとりしたりしているケアマネジャーばかりだと感じている。この状況だからこそリスクがありながらケアマネは毎月顔と顔を合わせて訪問していると思う。そうしていないケアマネがいたら教えてもらいたい。

また、地域の集いの場についても大事なところであり、市だけでなく地域から手が上がると広めやすい。委員のいる地元でぜひ声掛けしてもらいたい。

委員：介護者は何を望んでいるのかアンケート調査もしかりだと思う。各地区でいいものは5地区でまねしていただきたい。

事務局：3年に1回の調査結果を大事にしながら対応していきたい。

会長：共有しながら全体のことを考えていってもらいたい

3. その他 特になし。

4. 閉 会 あいさつ 阿部副会長 午後3時